



きくこと ―指導者の第一要件―

- かつて私が仕えた校長先生（以下、「先生」という。）は、初任校で受けた指導を折に触れて思い出し、襟を正している、とのことでした。その概要は、次のとおりです。



- 放課後、職員室で事務に追われていると、生徒が日直の仕事の報告に来たそうです。

先生は、机に向かったまま報告を受け、「お疲れ様。」と言って生徒を帰しました。

その場面を見ていた学年主任は、先生を呼んでこう伝えたそうです。

「今報告に来た生徒の態度は、大変立派だった。日頃の指導の賜物だ。一方、報告を受けたあなたの姿勢はどうであったか。教師として大切にしたいことの一つに、子供の話をきくことがある。この点、あなたは思うか。」

- 教師によらず、指導者として大切にしたいことに「**きくこと**」があります。

「きく」に充てる漢字には、「聞く」のほかに「**聴く**」があります。一般的に、より注意深く、**傾聴する**際に用います。また、常用漢字外ではありますが、「**訊く**」は**尋ねる**という意味をもちます。

- 私は上司として部下の話を「きく」際に、主に次の三つが大切であると考えます。

- ① 相手に正対し、先入観をもたずに「聴く」こと。**
- ② 相手が話す内容を、まずは共感的に受け止めること。**
- ③ あいづち等の工夫により、相手が話しやすくすること。**

- 併せて、**相手の考えを引き出すために的確に「訊く」こと**を行えば、部下はおのずと上司との対話を求めるようになると思いますが、いかがでしょうか。